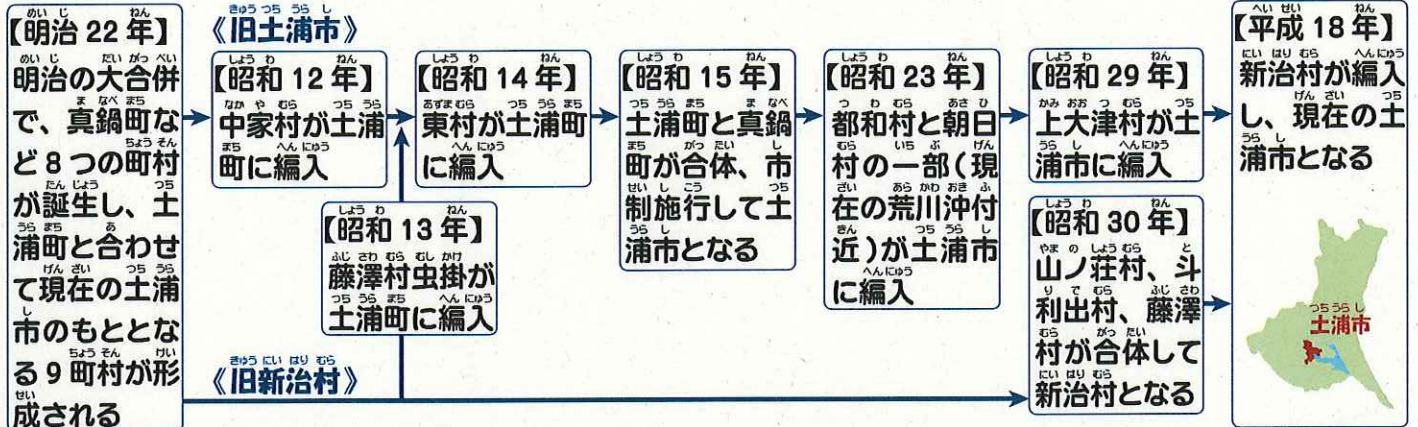


土浦市の市域の移り変わり

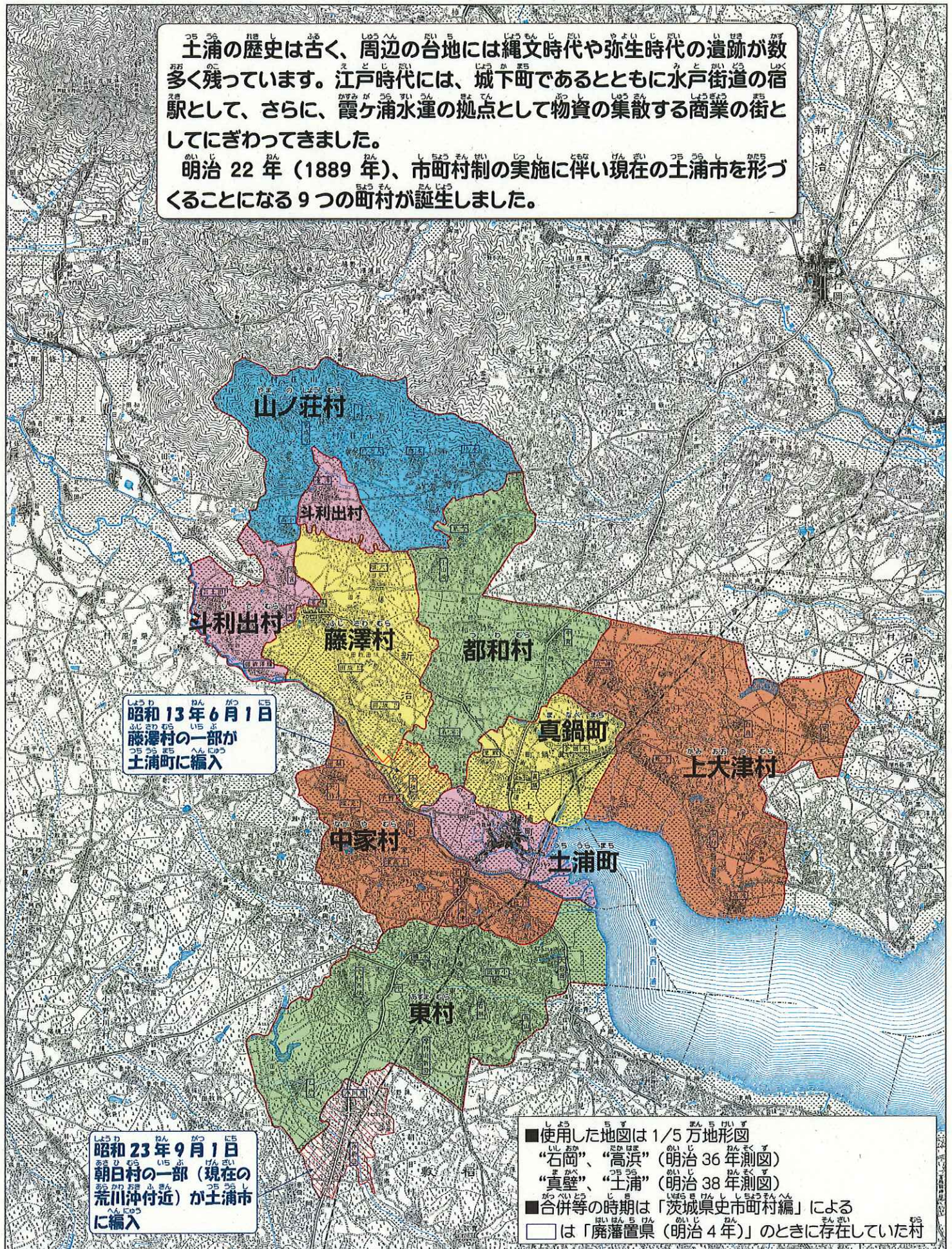
平成 18 年 2 月、土浦市と新治村が合併（新治村が編入）し、現在の土浦市となりました。



土浦市のもとになる 9 町村の誕生

土浦の歴史は古く、周辺の台地には縄文時代や弥生時代の遺跡が数多く残っています。江戸時代には、城下町であるとともに水戸街道の宿駅として、さらに、霞ヶ浦水運の拠点として物資の集散する商業の街としてにぎわってきました。

明治 22 年 (1889 年)、市町村制の実施に伴い現在の土浦市を形づくることになる 9 つの町村が誕生しました。



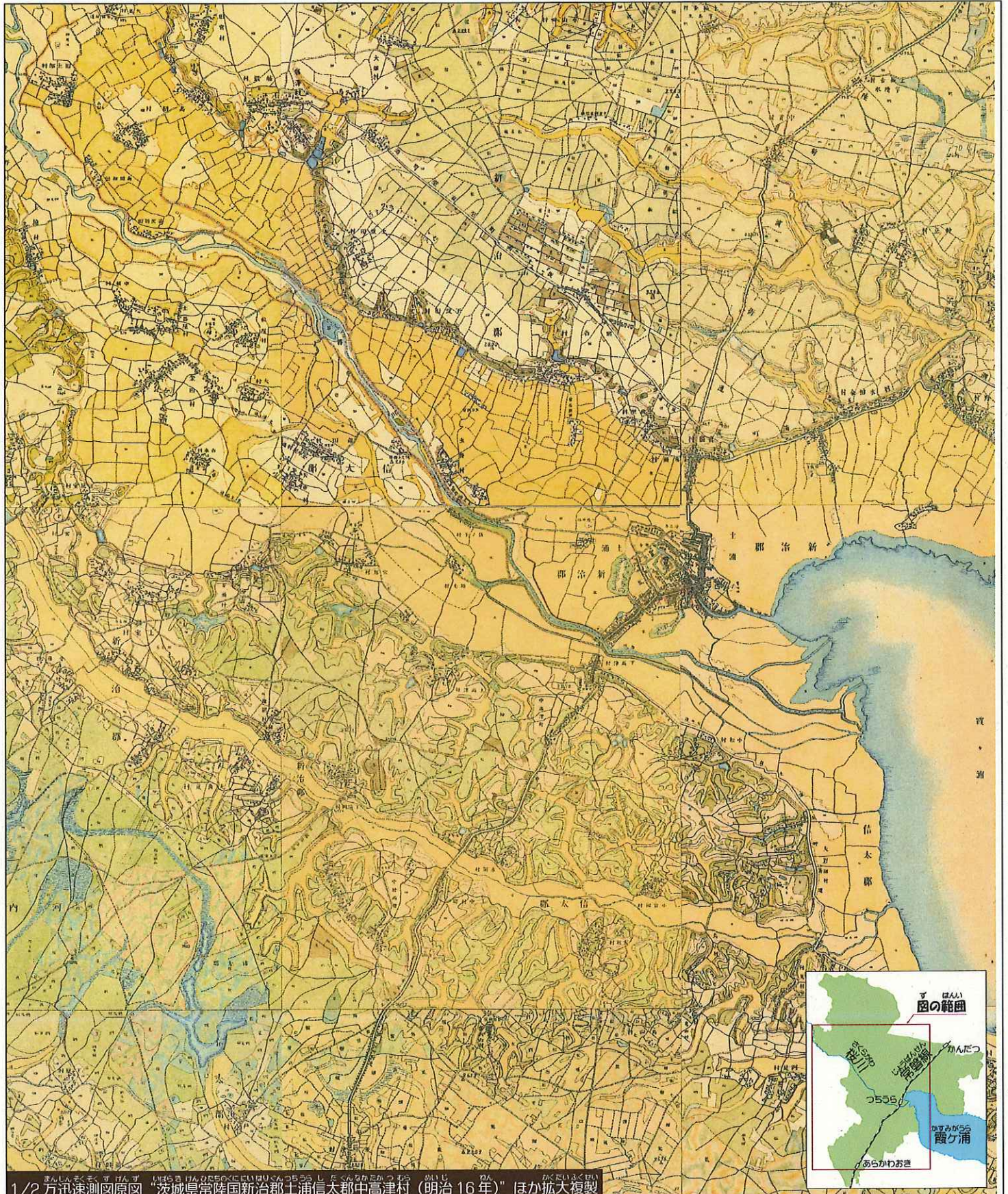
昭和 13 年 6 月 1 日
藤澤村の一部が
土浦町に編入

昭和 23 年 9 月 1 日
朝日村の一部 (現在の
荒川沖付近) が土浦市
に編入

■使用した地図は 1/5 万地形図
“石岡”、“高浜” (明治 36 年測図)
“真壁”、“土浦” (明治 38 年測図)
■合併等の時期は「茨城県史市町村編」による
□は「廃藩置県 (明治 4 年)」のときに存在していた村

江戸時代の面影の残る土浦付近

この地図に表されているのは今から130年ほど昔、明治10年代後半(1880年代前半)の土浦付近です。日本が近代国家へ歩みはじめたとはいえ、まだ江戸時代の面影が強く残っています。地図を見ると小さな集落ごとに「村」が形成されていることがわかります。



東京 35 区の時代

「23 区」が東京の代名詞のように使われることもあるように、東京都の特別区の数が「23」ということはよく知られています。現在のように 23 区になったのは昭和 22 年（1947 年）で、いまからおおよそ 70 年ほど前のことです。明治 11 年（1878 年）、「郡区町村編制法」に基づいてその原型となる「区」が東京に設置されました。その時は現在の千代田区、中央区、港区、文京区、台東区と新宿・墨田・江東の各区の一部を範囲として 15 区が置かれました。明治 22 年（1889 年）に東京市が誕生した時、この 15 区が東京市の範囲となりました。

昭和 7 年（1932 年）には、周辺 82 町村を編入して新たに 20 区を新設、もとの 15 区と合わせて 35 区になりました。昭和 22 年（1947 年）、戦後復興を効率良く進める目的で、35 区を 22 区に統合、半年後に板橋区から練馬区が分離して現在の 23 区となりました。

■15 区からはじまる

明治11年(1878年)～

く かく だい
■35 区に拡大

昭和7年(1932年)～

■22 区に整理統合

昭和 22 年 (1947 年) 3 月

■23 区となる

昭和22年(1947年)8月～



1. 麹町区 2. 神田区 3. 日本橋区 4. 墨田区
京橋区 5. 芝区 6. 麻布区 7. 赤坂区
8. 四谷区 9. 牛込区 10. 小石川区
11. 本郷区 12. 下谷区 13. 浅草区
14. 本所区 15. 深川区



- ※1～15は「15区時代」と同じ
- | | | |
|---------------------------------|------------------------------------|----------------------------------|
| 16. 品川区
<small>しながわく</small> | 17. 大森区
<small>おおもりく</small> | 18. 蒲田区
<small>はたらく</small> |
| 19. 荏原区
<small>えはらく</small> | 20. 目黒区
<small>めくろく</small> | 21. 世田谷区
<small>せたがやく</small> |
| 22. 渋谷区
<small>しやぶやく</small> | 23. 淀橋区
<small>よどばし</small> | 24. 中野区
<small>なかの</small> |
| 25. 杉並区
<small>さうび</small> | 26. 豊島区
<small>とよしま</small> | 27. 板橋区
<small>いたばし</small> |
| 28. 王子区
<small>おうじ</small> | 29. 龍野川区
<small>りやうのかわく</small> | 30. 荒川区
<small>あらがわく</small> |
| 31. 足立区
<small>あだち</small> | 32. 向島区
<small>むこうしま</small> | 33. 城東区
<small>じやうとう</small> |
| 34. 葛飾区
<small>かつしか</small> | 35. 江戸川区
<small>えどがわく</small> | |

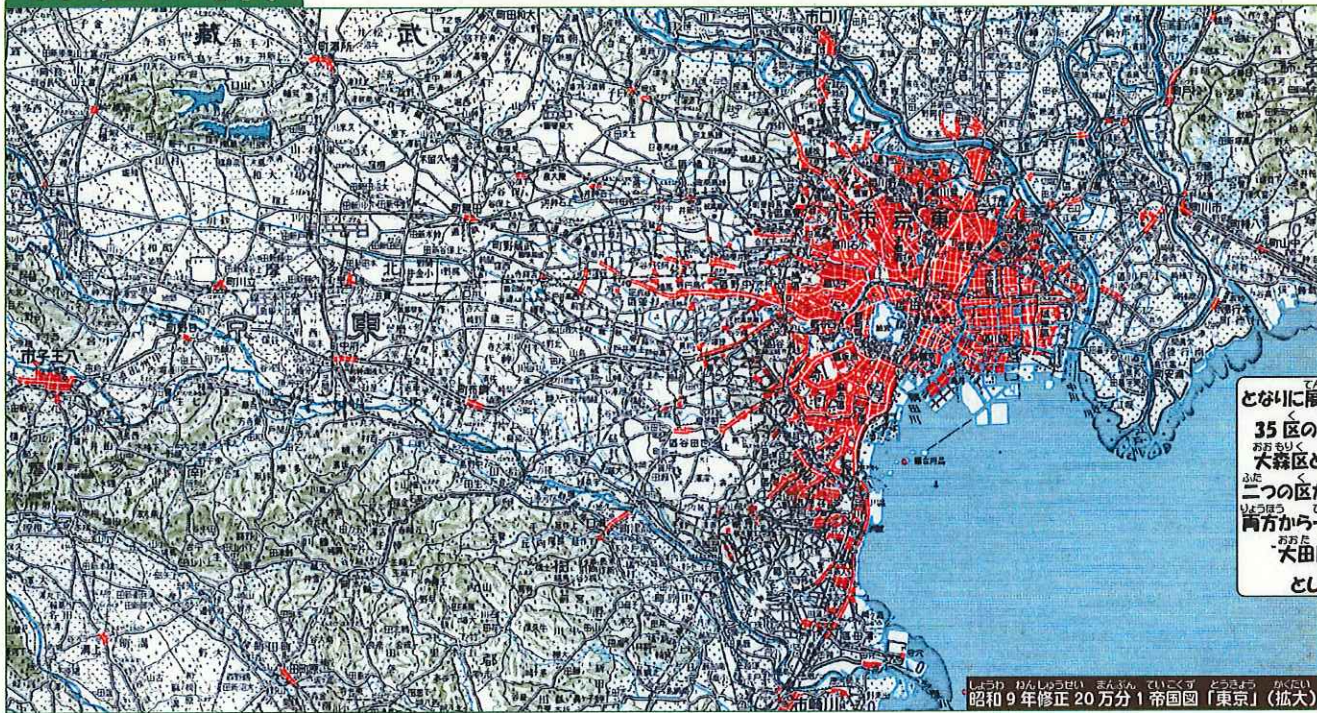


1. 千代田区 2. 中央区 3. 港区 4. 新宿区 5. 文京区 6. 台東区 7. 墨田区
8. 江東区 9. 品川区 10. 目黒区 11. 大田区 12. 世田谷区 13. 渋谷区
14. 中野区 15. 杉並区 16. 豊島区
17. 北区 18. 荒川区 19. 板橋区
20. 足立区 21. 葛飾区 22. 江戸川区



1. 千代田区 2. 中央区 3. 港区 4. 新宿区 5. 文京区 6. 台東区 7. 墨田区 8. 江東区 9. 品川区 10. 目黒区 11. 大田区 12. 世田谷区 13. 渋谷区 14. 中野区 15. 杉並区 16. 豊島区 17. 北区 18. 荒川区 19. 板橋区 20. 練馬区 21. 足立区 22. 葛飾区 23. 江戸川区

35 区の時代

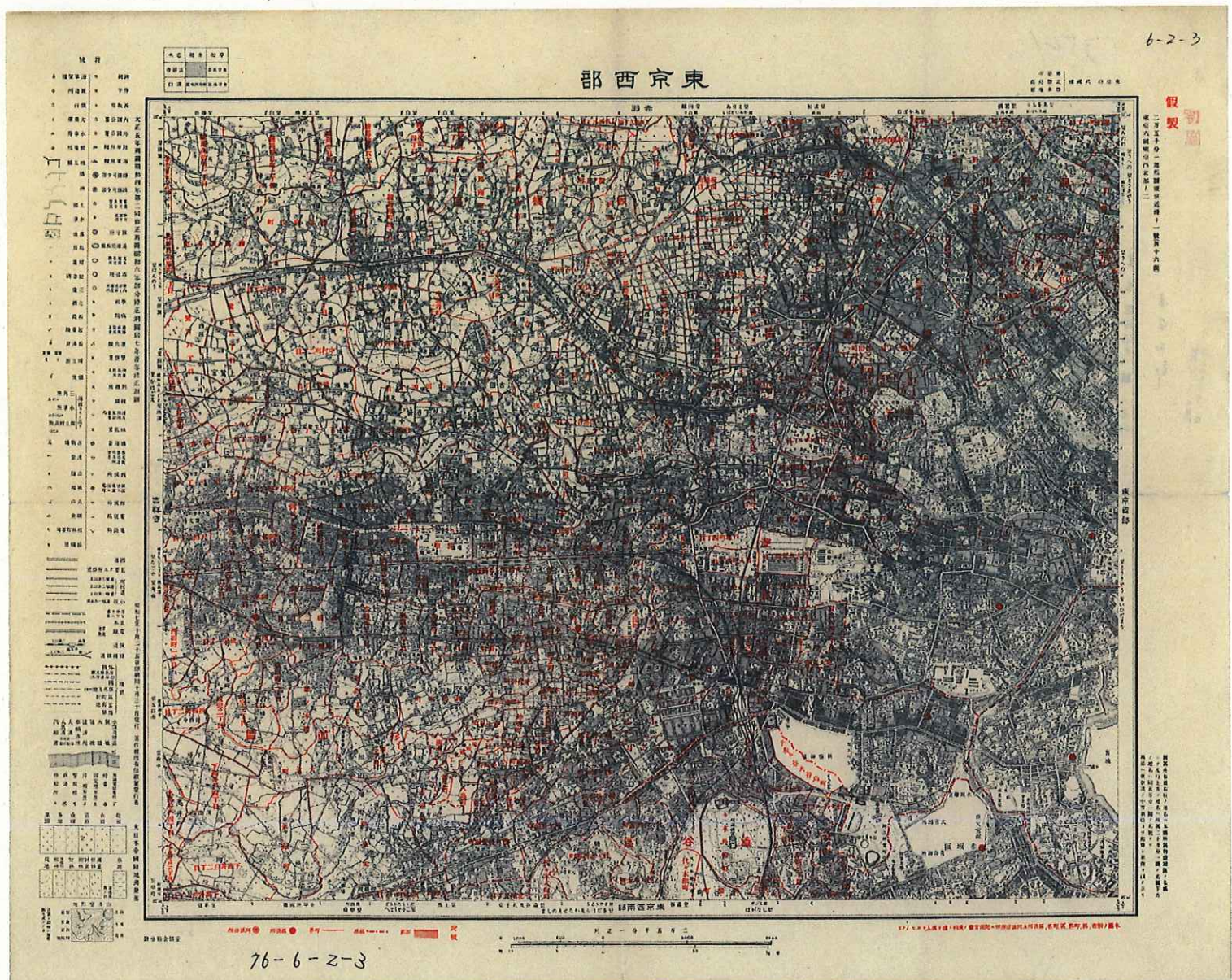


となりに^{てんじ}展示^{ちうし}している地図は
35 区の時代の区^く分^{ぶん}区^くで
おもしろく^{おもしろく}か^かま^まく^く
大森区^{おほもりく}と蒲田区^{かづの}だよ。
二つの区^{ふた}が合併^くしたとき
りよう^{りよう}同^{どう}じ^じの^の区^くを^をつ^つく^く
両方^{りやうほう}から一文字^{ひとみじ}ずつ^{ずつ}と^とて
お^おた^た大田区^{だいてんく}
としたよ

しょうわ なんしゅうせい まんぷん ていこくす どうきょう かくだい
昭和9年修正 20 万分 1 帝国図「東京」(拡大)

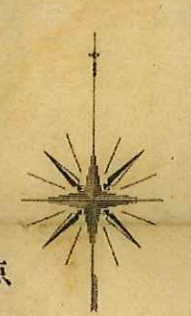
〔2万5千分1地形図〕

この地形図は、昭和 7 年（1932 年）に東京市が 15 区から 35 区に拡大した際、昭和 6 年（1931 年）部分修正測図の図の上に、新たに東京市に編入、区制が敷かれた地域について市区町界、区・町の名、区役所等を朱色で加刷印刷した昭和 7 年要部修正測図の 2 万 5 千分 1 “東京西部” です。合併前の旧町村名などもそのまま残っているので前後の関係を容易に比較することができます。



大森區詳細圖

大東京區今圖 三十五區之內

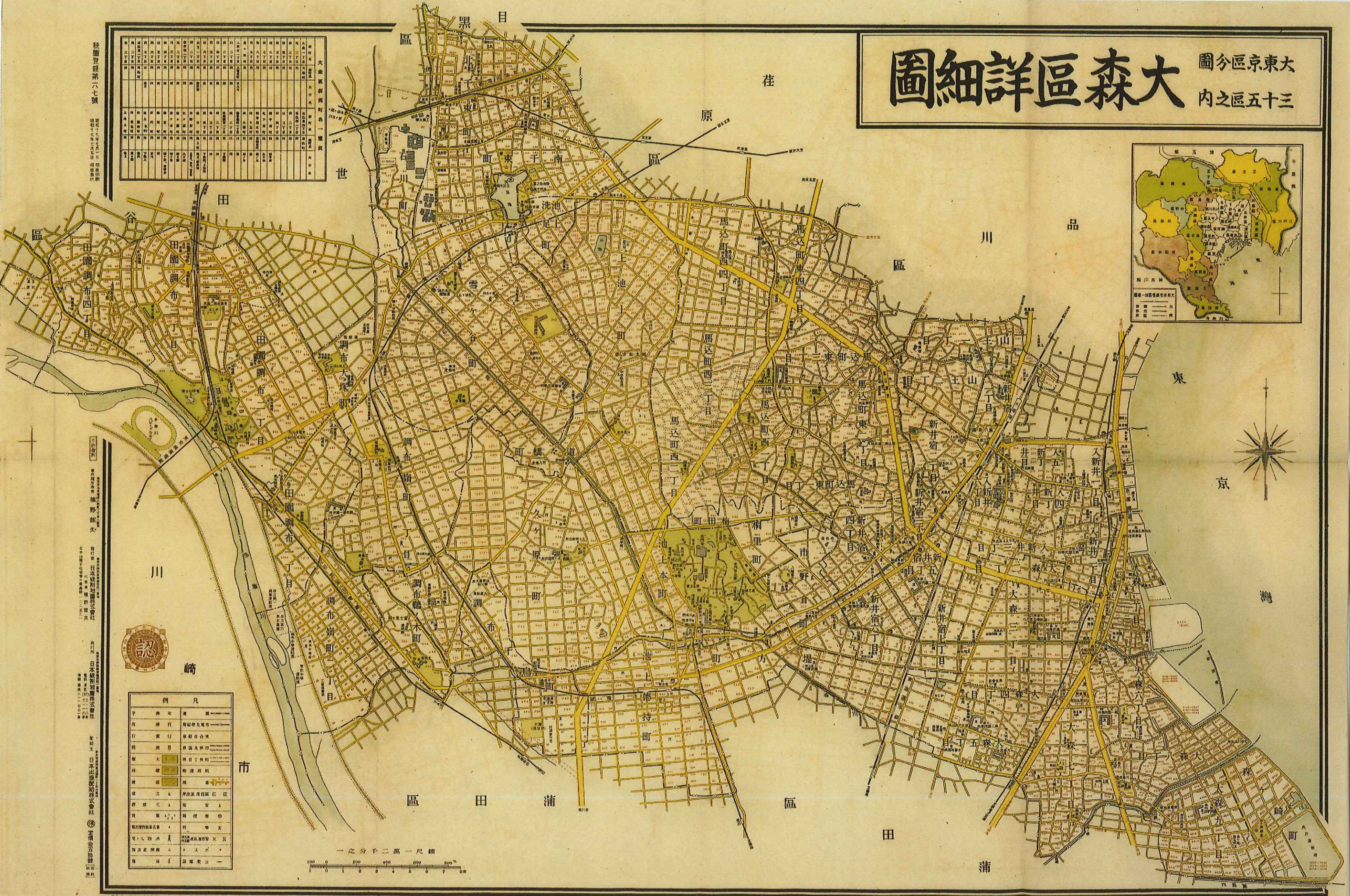
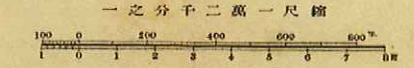


大森區町名一覽表

町名	面積(平方町)	人口(昭和十七年)	人口(昭和十八年)	人口(昭和十九年)	人口(昭和二十年)
大森一丁目	1.2	1,200	1,300	1,400	1,500
大森二丁目	1.1	1,100	1,200	1,300	1,400
大森三丁目	1.0	1,000	1,100	1,200	1,300
大森四丁目	0.9	900	1,000	1,100	1,200
大森五丁目	0.8	800	900	1,000	1,100
大森六丁目	0.7	700	800	900	1,000
大森七丁目	0.6	600	700	800	900
大森八丁目	0.5	500	600	700	800
大森九丁目	0.4	400	500	600	700
大森十丁目	0.3	300	400	500	600
大森十一丁目	0.2	200	300	400	500
大森十二丁目	0.1	100	200	300	400

凡例

記号	説明
—	町界
—	市界
—	区界
—	主要道路
—	次要道路
—	河川
—	公園
—	学校
—	神社
—	寺
—	公共施設
—	商業施設
—	住宅地
—	工業地
—	緑地



統計局編 昭和十七年七月一日現在 大森區詳細圖 縮尺 一万分之二 印刷 日本出版印刷株式會社 東京 日本出版印刷株式會社 東京 日本出版印刷株式會社 東京